



# 近世人物誌

やまの新聞附録

**天璋院殿**  
 天璋院殿は名を敬子とす松平正陸守  
 齊彬朝臣の女なり近衛家の養女あり  
 安政三年十月柳屋三右衛門徳川士左衛門  
 家定の四女所とせし家定は元六の  
 後落飾あり天璋院殿と号し静風月と  
 三光の出世後をのり玉ひと轉愛有  
 爲の世習いして成夜の戦亂俄起修羅  
 場の内戚劫風如の目を掠りて折徳川  
 家存の事ありと心を勞し玉る事少ら  
 斯此乱平らるる世上の波風治り後千  
 谷の邸に在り後生喜所の勤の外平生好  
 ませ玉に謡曲の和慰とて他事もあ  
 雨滴々たる三界惟心の理を諦め拾木の実の  
 數々五衰滅色の秋を觀下斯く歲月送  
 り玉ひし明治十六年十月廿日夜初の雨  
 の重らせ玉ひし羊年四九とせし玉  
 此君平生慈悲深かりて仁愛の心年頃  
 番馴し玉へる猫とて及みせり所隠棲め  
 後の常は所身と慎と諸事省せり  
 有様は在せし然りとてつもの女中  
 方不時の賜物多くありされ人々其  
 思を辱かたりて名を主従といふ情猶  
 母子の如懐慕慕慕慕も無りしといふ  
 澁柿園主人謹識す



東京 東橋區 〇〇〇〇 〇〇月 〇日

芳年  
 史林  
 活園工

